

1. 指定管理者(施設)の基本情報

施設名	箕面市立萱野中央人権文化センター
指定管理者	特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝
指定期間	平成27年度～令和6年度
施設概要	萱野中央人権文化センター、萱野青少年体育館・グラウンド
市支出額	年112,101,204円

2. 事業の実施状況

(1) センター利用に関すること

住民の平等利用の確保	3ヶ月前の事前予約・抽選制
利用者の増加、サービスの向上	らいとぴあニュース発行(隔月・3500部)
利用者等の安全対策に関する業務	消防避難訓練(年度末までに2回実施予定)
職員研修	外部の講座・研修会・視察研修・講師派遣等

(2) 施設・附属設備の維持管理に関すること

附属設備の保守点検に関する業務	総合管理委託(イーチ合同会社)
備品に関する業務	備品台帳に基づく管理
修繕に関する業務	委託業者の報告・利用者の苦情等により、予算の範囲内で随時修繕
日常清掃及び定期清掃に関する業務	総合管理委託(イーチ合同会社)
環境保全に関する業務	電灯の一部LED化とデマンド方式の導入

(3) 事業実施に関すること

地域ささえあい推進室事業	別紙「事業報告」のとおり
地域教育推進・子育て支援室事業	同上
相談事業	同上

3. 利用者の満足度

(1) 利用者アンケートの状況

アンケートの結果概要	別紙
------------	----

(2) 利用者等の意見交換会の状況

意見交換会の結果概要	別紙
------------	----

(3) 利用者からの意見を反映させる取り組み

取り組みの実施状況	別紙
-----------	----

4. 収支状況

別紙「収支計算書」のとおり

5. 特別提案の状況

月曜日の開館	2017年10月以降、すべての月曜日を閉館しているが、館の保守作業の必要性から、原則として第3月曜日を休館日としている。
会議室及び講座室の分割	2015年度7月利用分より分割できる形で貸館を開始している。
展示コーナーにおける喫茶コーナーの設置	コロナ予防対策上、適切な距離を保つ環境を整えて実施していたが、2021年9月末現在は緊急事態宣言発出のため、原則利用禁止としていた。解除後は、机椅子を間引いて基本的感染防止の上で通常は利用にもどしている。(ロビー機能・生涯学習機能・カフェ機能・中高校生居場所機能等)来館者に一息つける機会を可能な限り提供をしている。

6. 指定管理者の自己評価

新型コロナによる緊急事態宣言等の影響で、閉館や開館時間を短縮している期間もあったことから、年度を通して貸館稼働率・利用人数ともに大きく減少していたが、徐々にではあるが利用者数や稼働率が回復しつつある。開館時においても予防のため利用を控える団体はなくなっていないが丁寧に対応することで職員の対応の評価のご意見もいただいている。コロナ情勢が不透明であることから今後も継続していきたいと考えている。相談業務においては、新型コロナの影響で経済的困窮や家庭内暴力、学習習慣の不安定などによる学力の低下や不登校、仲間関係づくりの難しさなどが確実に生活にでてきている。相談内容も子育てや教育・進路奨学金相談から就労、雇用に及び年代を問わず生活全般の相談内容となっている。高齢者や、非識字の課題を抱える住民を主な対象に地域に相談員が赴くことで、窓口で待機するだけでは拾えない課題を発見することにつながった。また、電話での相談に関しては相談担当職員に限らず基礎情報のインテークを行うことで相談員とのスムーズな面談設定となっている。利用者アンケートの結果からは「おおむね満足」以上の評価を得られたと考えているが、例年どおり、施設、設備や清掃に関する要望を頂戴している。市と協議を重ねながら予算と必要度に応じて対応をしてきている。体育館やグラウンドを除く全館のトイレの洋室化は、おおむね好評をいただいている。清掃については職員でできることは実施していく等、貸館業務の改善を図っていく。

生涯学習事業は、新型コロナの影響により、参加人数や事業内容などを変更せざるを得ない状況があったが、今年度はかやのお宝人權まつりを開催することになった。これは、過去2年間の不開催となったが関係各団体との実行委員会の積み重ねによるものが大きい。教育事業は、感染防止の徹底と保護者のご理解をいただき子ども、若者の居場所事業の継続と学校園所との連携により気になる子どもや家庭への支援を行うことでできた。不登校傾向や中退リスクのある高校生への支援のため箕面東高校や市との連携を重ねてきているが、SNSを使った子ども・若者自身からの声のキャッチなどさらに環境整備をしてきている。

スタッフに関しては、研修を通じて社会課題へのアンテナを高く持ち、来館する利用者や、地域住民との関係づくりに努めており、次年度以降も引き続き取り組んでいく。